
トライアングル ~僕と私と俺の恋愛事情~

chi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

トライアングル～僕と私と俺の恋愛事情～

【Zコード】

N1525F

【作者名】

chi

【あらすじ】

僕の恋はむくわれない・私の恋はむくわれない・俺の恋はかなわない・・・そんな僕らの恋愛事情

プロローグ（前書き）

一部男性同士の恋愛を含みますので、苦手な方はお控りください。

プロローグ

僕の恋はむくわれない

私の恋はむくわれない

俺の恋はかなわない

ああ神様、どうしたらあの人は振り向いてくれますか？

田島彗のターン1

現在昼休み終わりの5限田午後一時。
最強最悪に眠い……。

お腹一杯だし、風気持ちいいし、日の光絶妙だし、先生の声が子守唄に聞こえてきた……
まずい。このままじやマジで寝る。

悪あがきでノート取るけど全然ダメ。暗号みたいな文字になってるし。

とこづかこの暗号、書いた本人も解読出来ないんですけど……

僕の席は窓側の後ろから一番田。最高の席だと思わない?
だって教室全体見渡せるし、窓側だし、後ろだし、眠いし……

・
ああ最後は席に関係なかった……それにしても眠い。

他の奴ら、よくこんな凶悪な気候で真面目に授業受けるものだと感心しながら辺りを見回す。

廊下側同じく後ろから一番田、まえだひかり前田光

あいつすげえ真面目にノート取つてんな。って、なんだ漫画描いてるのかよ。

その斜め後ろ、田中あいり

お前授業中に化粧すんなよ。たいして変わらないし……
つーか田の周り真っ黒じやん。お前はパンダか!

教室ど真ん中に見える金髪、佐々木剛さやぎょうさすが・・あんなに堂々と机に顔埋めて・・・先生も諦めてるし。ところかあの髪色、すげえ痛んでそう・・絶対将来はげる。

その隣、大塚聰史おおつか 聰史

めずらしい。あいつが真面目に教科書出してる・・つておい。お前さつき昼飯喰つたばっかじやん。

そんなんだからテブるんだよ！しかも隠れてないから！バカだ・・

教室で最悪のアリーナ席、吉田めい

僕があの席になつたら、絶対次の席替えまで学校休むね。

しかし今日も可愛いなあ。隣の席になれるならあそこでもいいけど・・なんてね。

僕の前の席、中村仁なかむらじん

お前なに一ヤ一ヤしてんの？校庭？

窓から見える校庭では、一年女子が体育の授業を受けている。

仁、お前危ない奴だな・・・一年女子の皆さーん、危ない奴が見てますよー。気をつけてください。

つて僕も見てるんだけどね。

サッカーカ。いいねえ、一つのボールに女の子が群がるかんじ。もしかしてコレは夢かしら？つて思うほどパラダイスな光景だね。あつ転んだ。

仁のことを言えないな。きっと僕も今一ヤ一ヤしてる。

「・・・め、・・島、田島ーー！」

「えつ！？あつハイ！」

うわー我ながら間抜けな返事・・・

「お前授業中だつてこいつの、外見で一いやいやしゃがつてー」の問題答えるーーー」

先生、僕だけじゃないでしょ！仁だって……つてお前、いつの間に真面目に授業受けてんだよ……裏切り者――――――。

「えーーと・・・・・あー」

23

「え？ あつ・・・ 2
3！」

「正解。ちゃんと前向いとかー！」

「あつハイ。すみません。」

「ありがとう、アキ。マジで助かつた。」

僕の後ろの席、 有島秋 ありしましゅう

学年の1／3の女子はこいつのこと好きなんぢやないかな。男の僕から見てもカッコイイ奴。

「ケイ、お前キヨロキヨロしそぎ。拳動不審で通報されるぞ。」

「そんな一ほんの出来心だつたんですう 刑事さん・・・つて気付いてたんならもつと早く教えるよ！」

「お前ね、それが助けてもらつた奴の言葉かーもう助けてやうねえ。」

「あーウソウソ。ごめんなさい！すっごく感謝してますアキ様！！」

「そんないいんだよ、ケイ君。明日のお昼に焼きそばパンさえ食べれば。」

「焼きそばパンって！どんだけ競争率高いと思つてんだよ！…」

八一

だつてね先生、有島くんが・・・

「授業受ける気ないなら出ろーー！」

「ハイ、すみません……。」

う——恥ずかしい・・・吉田さんまで笑つてゐる・・・

なんで僕だけ・・・神様不公平です。

「お前のせいだからな、アキ。」

「でも眠氣飛んだだふ。」

ああ飛びましたとも、僕のプライドと共にねー。粉々に飛び散りまし
たともーー。

「じゃあ明日、焼きそばパン二つようしへ。」

おい。一個増えたでー。このさやかっかり者ーー。
くつそーわかったよ、買えばいいんだろ買えばーー。

太田めいのターン1

現在昼休み終わりの5限目午後一時。
最強最悪に退屈。

数学は嫌いじゃないけど、この先生は嫌い。
だつてキモいんだもん。
さつきから私の反応ばっかりみてる・・・最悪。

でも一番最悪なのはこの席。

この教室で最悪のアリーナ席、教卓の目の前。
本当は次の席替えがあるまで休みたいくらい・・・でも私、優等生
だし。

あつ、また私の反応うかがつてる・・・

私はこいつ微笑んでうなづく。

これで満足か？

あーめんどくさい・・・

右隣の席に目をやる。太田早苗

成績：中の下、ルックス：中の下、つまりクラスの底辺。
ていうか、成績悪いんだから授業ぐらい真面目に受けろよー。
寝るな！このバカ！あつ起きた・・・

そんなに赤面しなくても・・・誰もお前を見ていないって！

・・・あー見てるか、私が。
まあどうでもいいけど・・・

左隣、
金子建 かねこけん

かねこけん

成績：中の中、ルックス：中の下、つまり普通。
あつ！ しまつた・・・目が合つた。
とりあえず、微笑んでおこう。

なに急に意識しだしてんだよ！バカかお前！！

・・・・ちせんめいちせん

「ん? どうしたの? 早苗ちゃん。

「うう、うう、めんね。あのね、ちよつと寝ちゃつてたみたいで・・・ちよつとじめないけどね・・・

「でね、ノートをね、見せて欲しいんだ・・」

でも私いい子で通つて いるし・・・

「本当にごめんね・・ありがとうございます！」
礼を言うなら金をくれ！！

「たじまー田島ーー田島ーーー」
なに? どうしたの?

「えつ！？あつハイ！」

なにその間抜けな返事・・・

「お前授業中だつて、いのに、外見でニヤニヤしゃがつてー」の問題答える！！」

ニヤニヤつて・・・妄想でもしてたわけ？バカじゃない？

立たされている奴、田島彗
たじますい

成績：中の下、ルックス：上の中、つまり顔だけの天然バカ。
なんで女子はあれを「可愛い」って騒ぐんだろう・・・

「えーーと・・・あー」

こんな簡単な問題も解けないのに・・・
騒いでる女子もバカだからか？

「2 3」

あつ・・有島秋の声

「えつ？あつ・・2 3！」

良かつたね、命拾いして。

「正解。ちゃんと前向いとけ！！」

だから、私の反応いちいち見なくていいからー

田島彗の後ろ、有島秋
ありしましう

成績：上の中、ルックス：特上、つまり完璧。
でも私は苦手。

だつて無愛想だし。

私が微笑めばたいていの人は言つ事聞くのに、あいつ無関心だし。
でもま、あいつに女子が騒ぐのはわかるかな・・・
まあどうでもいいけど・・・関わることもないだろうし。

「焼きそばパンつて！どんだけ競争率高いと思ってんだよーーー！」

「ハイ・・・・。」

おひる、おとこがいたよ。

「ハイ、すみません・・・。」

あはは、どこまで天然バカだよ！田島彗。

それにしても・・・あーー退屈。

畠田めごのターン1（後書き）

感想・アドバイス頂けたら参考にします^_^

有島秋のターン1

現在昼休み終わりの5限田午後一時。
最強最悪に暇・・・。

授業？そんなもの聴かなくつたって俺わかるし・・・
授業なんて理解できてない奴が聴くもんどう？
ま、聴かないから理解できないんだろうけど。

お前のことだよ・・・ケイ・・・

前の席、田島彗

家が近所でガキの頃からの幼馴染。って、今もガキだけど・・・
頭グラグラさせて、今にも寝そうだな。
おつと！危ねーなあ・・・机で顔打つぞ・・・

おつー？頑張つて起きよつとしています田島選手。

頑張つております！頑張つてこるけど・・・ダメだあーーー

あーあ、絶対鼻打つたな（笑）

まあこここの席は眠くなるよなあ・・・

窓側の後ろなんて「寝ていいよ」つていつてるような席だもんな。

それに引き換え最悪のアリーナ席、吉田めい
まあ、あの席があいつなら先生達も嬉しいんだろうけど。
おーおう、伊沢のやつ吉田だけに授業してるつもりか？

吉田もよく律儀に反応するよなあ・・・
でも、笑顔が若干引きつってますよ～お嬢さん（笑）

おひへ～ケイのやつ、二つの間に起きたんだ？

つて、お前なにキョロキョロしてんの？

拳動不審すきるから（笑）
なに見て・・・田中？

廊下側後ろ、田中あ～り

お前、授業中に化粧つて・・・
げつ、まずい！見てるの氣付かれた・・・
つておい！なぜそこで赤くなる！
つーかお前田の周り真っ黒じやん！
とりあえずアイライン引く手を止めろー！

「あ、あの有島君・・・」

「あ？」

隣の席、みすのすず水野鈴

こいつ何かと話しかけてくるんだよなあ・・・

男共は「可愛」とか言つたけど、ただのぶりっ子だろ。

「なに？」

「「」あんね。消しゴムなくしあやつたみたいで貸して欲しいの。
つて足元に落ちてたじやん。

「そこに落ちてるの違うの？」

「えつ？あ、本当だ！ごめんね、私っておつかよこちよいだから……。
・・。」

誰もそんなこと聞いてないけど……つーか自分で言つたー！

「ほら、これだろ？」

つたぐ、なんで俺が拾わなくちゃいけないんだよ。

「ありがとう！有島君つて優しいね。」

えつ？普通じゃねえ？この状況で拾わない奴の方が少ないだろ……。

つてケイ、お前なにニヤけて……
あー一年女子がサッカーやつてるわけね。
でもねケイ君、お楽しみ中のところ悪いんだけど、伊沢先生がすっ
ごく睨んでいらっしゃいますよ。」

「たじま、田島、田島……」

ま、そつなるわな。

「えつ！？あつハイ！」

あーあ、間抜けな返事しちゃって……

「お前授業中だつてこのに、外見でニヤニヤしあがつてーの問題
題答えるーー！」

「えーーと……あー
仕方ない……助けてあげましょ。」

「2 3」

「えつ？あつ・・・2
3！」

「正解。ちゃんと前向いとカーー！」

「あつハイ。すみません。」

「ありがとうな、アキ。マジで助かった。」

ケイお前#三口#三口#三すゑ拳動不審で通報されるも

「そんな一ほんの出来心だつたんですね、刑事さん……つて気付いてたんならもつと早く教えるよ！」

L

「あーウソウソ。ごめんなさい！すっごく感謝しますアキ様！！」

「そんないいんだよ、ケイ君。明日のお昼に焼きそばパンをえ食べれば。」

焼きそばはソースで！とにかく競争率高いと思ってんだよーーー

卷之二

知らんふり

「授業吸むる気ないなら出でーーー。」

「ハイ、すみません・・・。」

あーあシコンとして（笑）

「お前のせいだからな、アキ。」

おこおい、人のせいかよ！

「でも眠気飛んだだろ？」

「そりゃ、田は覚めたけど・・・。」

変わつてないなあ、言い返せなくなると口を尖らせるクセ（笑）

「じゃあ明日、焼きそばパン」「つよひしへ。」

「つて、一個増えてんじゃねーかーーー。」

はは、さすがに気付いたか（笑）

やつぱり、暇な時はケイをからかうに限るな。

とつあえず、明日の昼休みまでの暇つぶしこはなつねつだ。

有島秋のターン1（後書き）

感想・アドバイス頂けたら参考にします。

田嶋樹のターン2

やつと終わった・・・

いろんな意味で地獄の5限目。

今はホームルーム終わりの放課後。

部活に行く奴、委員会に行く奴、帰る奴・・・
みんなそれぞの時間に向かって教室を出でていく。
僕はそんな光景を横目で眺めている。

あつー今変態っぽいって思つただらつ、断じてそんな覗き趣味はな
い！！

「ねえ、さちこーー今日駅前のクレープ食べに行かない?
ん?大木加奈の声?

「いいねーーあつーその前に図書室寄つて行つていい?
」つひは江川幸子。

「あーいいなあー私も一緒に行つてもいい?」

それに柴田まみ。

なんで女の子つて、甘いものになるとみんな嬉しそうなん
だろ??

つーか

「女の子つてもれなく可愛いよなあ・・・」

「はっ？ 何か言ったか？ ケイ。あれ？ 声に出しゃつてました？」

「いやあ僕は思うのだよアキ君！女の子ってみんな可愛くない？」
後ろの席、有島秋は現在クロスワードに熱中。

「 そうかあ？ 可愛いやつも居れば、そうでない奴もいるだろう。あ
つ！ なあ五文字でアから始まつて、ルで終わる言

「いいや、違うね！」

卷之三

「なんだよ・・・・遮るなよ」

「お前は間違っている！女の子は皆可愛いの！！見ろ！駅前のクレープ一つであれだけハシャげるんだぞ？可愛いいじやないか！」

「お前何故に馬鹿にしてねえ？」

「しない！」一かお前は、クロスワードよりももつと女の子に興味を持つ！！」

「あつ・・・・・」
しまつた・・・・・ついつい力が入つて破つちゃつた・・・・・

「うー、めんね。アキくん（ハート）」

「いいんだよケイくん。今週の掃除当番代わってくれれば。」

「はあ？ なんでだよーーー。」

「なんで？」

「こや、 やります・・・ やらせてください。」

「せんにやりたいなら仕方ないなあ。 やらせてあげる」

「わあ嬉しい。 あははははははは・・・ はあ。」

なんて・・・ 最悪な一日・・・

田嶋薫のターン2（後書き）

感想・アドバイス頂けたら参考にします^_^

有島秋のターン2（前書き）

良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://b10
ggs.yahoo.co.jp/chichi_anjii61020

有島秋のターン2

くつそーケイの奴！

もつ少しで全部埋まつたのに・・・

「ア」で始まつて「ル」で終わる5文字があ
あの答えつて結局なんだつたんだ？

「あ、あの・・・」

うーん、わからんーー！

「あのー！有島君ーー！」

おこおい、有島つて「ル」で終わつてないし・・・字足りずだし・・・

・

「有島君ーー！」

ん？なに？俺を呼んでるのか？

振り向くと、そこに居たのはC組の向井レナだつた

「あーわりい。考え方してた・・・何？」

「あ、あの、今ちょっといいかな？」

おいおいお前大丈夫か？耳から湯気が出そくなぐらい真っ赤だぞ？

ていうかこのパターン・・・

「あのね、私すうと有島君のことが好きだつたつていうか……やつぱり……」

「好きなの……」

つーか君のこと全然知らないんですけど……

「あーえつと……・・・・・デスね・・・・・」

「あつー！でもどういづする気はなくて……・・・・・」

はつ？

「有島くんに私の気持ち、知つてて欲しかつたつていうか・・・だ

から・・・・・

・・・・・・・

「そつか・・・・・」めんな

今の俺、至上最悪で最高の笑顔してる自信あり！

「つづんーー」ひちーそ、時間取らせでー「めんね。じゃあー！」

ほらみろ、俺の笑顔でさらに顔を赤くさせてたじゅねーかー

これが皮肉だつて、きつと向井は一生氣付かないだろつな・・・

「女の子はもれなく可憐いー。」

ケイはあー言つたけど、俺はそんな風には思えない。

あーゆー控えめなつもつでズーズーしいのが一番癪に障る……

「好きになつてくれてありがとつな」

とかクソ生ぬることと言つとでも思つてんのかよー

ビーーーする氣ないんだつたら一生黙つてるーー

好きでもない奴に言つて寄られるせいかザイにならへないんだよー

つて、俺が一番よく分つてんだ……

だから……今は言えねえ……

「あの、有島君？」

なんだよ！人が感傷的になつていてる時に……

「「」、「めぐ。そんな恐い顔して、何か考え事してた？」
吉田めー？」

「あついや、「めぐ。何？」

「有島君、今週掃除当番だつたよね？」

「あつ、それなんだけど、ケイに変わつてしまつたから。」

「やうなんだ、わかつた。じゃあ「めぐね、呼び止めて

「ああ、じゃあな」

「そうだよー。掃除当番代わつてもらつたんだ・・・」

「からかう粗手は掃除当番だし、クロスワードはそいつに破かれたし・・・」

「えりこよつまた瞬だ・・・」

有島秋のターン2（後書き）

感想・アドバイスいただけたら参考にします^_^

畠田めごのターン-2（前書き）

ようやく三人とも一周目が終わりました＝ 3
でもまだ進展なし w
良かつたらブログも覗いてみてください ^ ^ http://bl
ogs . yahoo . co . jp / chi _ anjii61020

「さあ、おひさしぶりだね。」

うん、また明日ね

あー疲れた・・・・
一日中作り笑顔してると顔の筋肉がつるんだよねえ。

まあ仕方ないか

これが、この学校で

これがこの学校での私のキャリアだもんね

は
あ

「お嬢さん、化けの皮が剥がれかかってますよ?」

耳元で囁かれて、思わず叫んでしまった・・・・

「おせが、じゆうじゆう。」

振り返るとそこに居たのは犯人、宇野ちえ

私の本性を知る、数少ない友人。

「あんた授業終わったからって『抜きすぎ』。そんなに疲れるならやめりやあいいのに、猫かぶり。」

「あのね、やめたくてもやめられない所まで来かけつてんのよ。」

「それで、眠いけど、続きが気になつてこの漫画を最後まで読み終わるまでは寝れない……みたいなこと。」

「違つ……いや、間違つてもないか?」

「おこおこ、ボケたつもりのものをそんなに真剣に考えられたら、」
「うひが恥ずかしいんですけど……」

「で? なにか用があるんでしょう?」

「あつー。せうせう。」めん、今日委員会です。掃除当番出られない

「えーーちえも?」

「ちえもつて……」

「高田君もあいちゃんも用事で来れないって……」

「あひひ、まあ仕方ないよね。」

「私ひどい……?」

「確かもう一人居たんじゃない? えーと……そうそう有島君だよ

!

「その有島君は教室のど真ん中にも居ないんですけど……」

… … … … …

委員会終わったら駅前のケリーでおつかれさー

モードの実験研究

「はいはい。じゃあね。また後で！」

はあ・・・仕方が無い・・・有島君探そう。

5 分後

くつそー！どこに行きやがつた！有島秋！！！

逃げてたら殺す！！

～10分後～

や、やつと見つけた・・・

「ありし・・・」

ん？一緒にいるのはC組の向井さん？
げつ、やばい！告白現場だ！！！

思わず隠れちゃった・・・

「そつか・・・じめんな」
あつ・・・フラれた・・・

うーじじじみー・・・声かけずらいなあ・・・
えーい！！

「あの、有島君？」

なんでフツたあんたがそんな顔してんのよ！？

「「」、「」めん。そんな恐い顔して、何か考え方してた？
なぜ謝る私・・・私は悪くないぞ！？」

「あついや、「」めん。何？」

「有島君、今週掃除当番だったよね？」

「あー、それなんだけど、ケイに変わつてもうつたから。
えー？ それならそうと早く言つてよ！
探し回つたの無駄じやん！！」

「やうなんだ、わかつた。じゃあ「めんね、呼び止めて」
ああ、もう！ 早く掃除しよう！－

「ああ、じゃあな」
これだからモテる奴は！

ていうか向井さん、フラレタのござりしてあんなにすつきつした顔
だつたんだろう？
人を好きになるつて私にはわかんない・・・

つてもう一早く掃除終わらせてクレープ食べにいこう！

畠田めごのターン2（後書き）

感想・アドバイス頂けたら参考にします^_^

田嶋樹のターン3（前書き）

少しだけ進展したかな?
でもまだまだ先は長い・・・
良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://bl
gs.yahoo.co.jp/chichi_anjii61020

田嶋君のターン③

あーもうー

なんて最悪な日なんだ！！

つーか・・・・・

「なんで誰も居ないんだよ…………」

くつそー思わず叫んでしまつたじやないか！

つて

「あー—————？」

せっかく集めた「ミニ」が・・・・・吹つ飛んだ・・・・・

あーもうー！

とほいえ、頑張つてるよー僕！！
だつて見て、じらん。あと半分だーー

・・・・・・・

といづか、あと半分もあんのかよ・・・・・

「はあ・・・・」

やひつ・・・・・

「いみんなさーーー田嶋君ーーー」
ん？吉田さん？

「えつ？ 何が？」

あまりにも吉田さんが勢いよく飛び込んできたから、間抜けな返事をしてしまった・・

「私も掃除当番なの。なのに一人でさせちゃって・・・」

「あー・・いいよ別に。他のやつらも来てないみたいだし、気にしないで。てか、大丈夫？ 少し休ん」

「すぐ手伝うー。」

「あー・・うん、ありがとう。」

見事に遮られた・・・

『女の子は皆可愛い』僕は本当にやつ狂つんだ。
だけど、吉田めいはその中でも特別可愛いと思つ。

別にルックスが飛びぬけていいわけじゃない。

ルックスだけで美人つていうなら、吉田さんと仲のいい『守野ちえ』
だと思つし、可愛いのは『水野鈴』だと思つ。

うーんなんていつのかなあ・・・吉田さんは行動が可愛い。

皆は『ちゅうとここの子あわるー』つていうかど、あれは一生懸命な
んだよ。

それにーその割りには皆、吉田さんに微笑まれると意識してるじや
ないか！

今だつてほひり・・・・・

「田島君、これ捨ててもいい?」
走ってきたんだらうね。息きらして・・・

「うん、いいよ。ありがとひ。」

少し休めばいいのに・・・可愛いなあ。

僕はね、女の子は皆「花」みたいだと思ひうんだ。
だから女の子には優しくしたい。

でもね、好きな子には特別優しくしたいだらう?だつて男だもん。

世界中の花を花束にして、特別なその人にあげたい・・・つけてくさい?

吉田さんだつたら、あげてもいいかもしけない・・・

「・・・くん?田島君?」

「ん?あーじめん!ぼーっとしてた」
まづいまづい、考え込んじやつた・・・

「あはは、一人で掃除してたから疲れちゃつた?いいよ、休んでて
も。」

うーん・・・なんて気遣いのできる子なんじょ・・・

「ねえ吉田さんて、長女?」

「えつ？突然だねえ（笑）そつだよー下に弟と妹がいるの。」

「あつやつぱりーお姉ちゃんって感じがしたからで。」

「ん？（笑）田嶋くんは？兄弟はいるの？」

「うん、姉がいる」

「へえ、仲いいの？」

「えつ？・・・・・うん・・・・仲・・・・いいよ・・・・」

「えー？本当？なんか反応わるによ（笑）」

「あつ、いやあ・・仲いいってどうこういつ」とかなあつって一瞬考え
てしまつた（笑）」

「あはは、なんだそれ？（笑）」

今日は本当に最悪の一 日だつたけど、吉田さんと一人っきりになれ
たし、最悪でもなかつたかな？

うーん・・・・「中悪」ぐらいだな（笑）

田嶋薫のターン3（後書き）

感想・アドバイス頂けたら参考にします^_^

畠田のこのターンいわ（前書き）

めこひやん本性全開です。
セリフ文章が多いです。

良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://bl
ogs.yahoo.co.jp/chichi_anjii61020

「バナナクレープを2つ

「チヨコソースとクリーム多めで…」

「ちょっとめい！太るわよ！！」

「いいじゃない、掃除で疲れたの！」

しまった…・・・・・やすがにボリュームが・・・

「で？」

「えつ？」

クレープのあまりのボリュームに気を取られて、間抜けな返事しち
やつたじゃない…！」

「えつ？じゃなくて！有島くんは見つかったの？」

「ああ！見つけたんだけど、告白現場でね。しかも田島君と当番
交換してたの。もう早く言つてよ！…つてかんじ。」

「有島くんモテルからねえ…」

「まあ顔はいいと思うけど…・・・でも人の人無愛想じやない？」

「やじがいいんでしょ、でも私は田島君のほうが好き……かな」

「え――――? なんで? まあ確かに顔は可愛いけど……」

「それだけじゃないよ、田島君は……優しいよ……ってあなた、顔のこと気にするわね……」

「だつて結局、皆が最後に選ぶのは顔じゃない……」

「いや、違うだろ――!」

「ちえに言われも説得力がな――――――!」

「この美人さんめ――!」

「おこ――つて別にいいじゃない、あんただつてモテないわけじゃないでしょ?」

「そんなの、私が『いい子』で言つ事なんでも聞きやうだからですよ?」

「あの――お詫びすみません、お客様こちら新商品なんです。宜しければ試食をどうづか。」

「あつ――あつがどうぞまます
わあい、ラッキー
ん?」

「なによ? ちえの分もあるでしょ?」

私はあげないわよ！

「あんたさあ、態度変わりすぎーー！いつかあんた、そんなんで彼氏できたりじつするの？」

「作らないからいーもんー！」

「もんー！ってあんた・・・」

「だつて男子つてバカばっかりじゃない！みんな私のこと、優等生のいい子ちゃんだつて思つてる。」

「そりゃあんたが本性見せないんだから当たり前でしょー！」

「だつて、本性見せたら絶対皆離れていくもの・・・」

「だからーーなんでそんな風に隠つの？」

「だつて私の本性なんて、口悪いし、たいして面白くないし、外見だつて中の中だし・・・」

あーもうコンプレックスだらけだ・・・

「やうじう所がいいー！って言ってくれる人だつていると思うけどー。」

「まさかーその前にこの本性を見破る人なんていないねーー！」

「そうかなあ？」

「やうだよーーもつーの話は終わつーせりあはやく食べよー。」

そうだよ・・・そんな人が居たら、私の方が好きになっちゃうね
!!

まあそんなことはありえないけどね!

畠田めごのターンいみ（後書き）

評価していただけすると嬉しいです^_^

有島秋のターン3（前書き）

まだまだ進展なし。

良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://blo
gs.yahoo.co.jp/chilanjil61020

有島秋のターン③

結局することもなく、家に向かっている。

こんなことなら掃除当番すればよかつたかな・・・

まあ後でケイがうちに来るだろ。

おばさん今日居ないって言つてたし。

あーそれまで暇だ・・・

あつ！

噂をすればケイのおばさんだ。

それにカズ姉・・・とあれば・・・

「有島？！」

ん？誰だ？

「有島だよな？」

誰だっけ？顔を見ても思いだせん・・・

「お前まさかオレのこと忘れたんじゃ・・・

そのまさか・・・

「いや、覚えてるよ・・・えーと・・・あのー・・・

思い出せー思い出すんだ俺！・・・

「やつぱり忘れてるじゃねーか！！オレだよ。

じクラスだつただろ！・・・

あーーーーーそうそうーいたいた！！

佐伯良一・中二の時
（れきりょういち・ちゅうにの��）

「うん、知つてたよ・・・」

「嘘つけ！！」

「佐伯くんの知り合い？」

「この女、自分に自信有りって感じだな・・・上田遣こやめろー

「有島秋つていつてオレの中学のクラスメイト。」

「えつ？あの有島くん？？」

「どの有島くんだよ！？」

「えー佐伯にこんなカッコイイ知り合いがいたの？なんで今まで黙つてたのよ！」

「うちの女はえらくケバいな・・・

「あー知つてる、知つてる！有島秋、おれの中学でもちよつとした有名人だつたぜ。」

「この男は典型的なガリ勉つてかんじだな。」

「佐伯！私達のことも有島くんに紹介してよーーー！」

「えー別にいいよ・・・覚える気ないし・・・

「あーそつだな。有島、この背の小さこ子が岸田麻衣ちゃん（きしだまい）」

「よろしく」

「なぜ顔を赤らめる・・・

「このうねうね女が野田麗子（のだれいこ）」

「「ひるむわこ」は余計でしょ！」

確かに「ひるむわこ」・・・あーあ佐伯殴られて・・・

「この暴力女！あー嘘です、『ごめんなさい』！」

佐伯、なんて弱いんだ・・・

「で、こっちの男が堂島進」

堂島？どこかで聞いたことが・・・

「あーー堂島！！模試で必ず上位にいた奴だ！あんただつたのか。」

「それって一度もお前に勝つたことのないおれへの嫌味？」

あれ？ そうだつたっけ？

「えー有島くんってそんなに頭いいの？」

いちいちつるさい女だな・・・声のボリュームを調節しろー野田麗子！！

くそ、覚えちまつたじやないか！・・・

「そうだよ、こいつすつげえ頭良かつたんだよ。しかも顔もいいだろ？だから有名人だつたんだよ。」

周りが勝手に騒いでいただけだろう・・・

「じゃあなんでうちの高校に来なかつたの？」
あーこいつら全員、白鳥学院しらとりがくいんか。

「やうだよー有島くんのその制服、北浦きたうらのやつでしょ？」

「やうなんだよなあ、有島は白鳥に行くと思つてたのに、北浦だろ

？北浦も悪くはないけど偏差値は白鳥と比べ物にならないし、学校の先生達もがつかり。で、なんで北浦なの？」

「欲しいモノがあるから。」

「欲しいモノ？」

「おいおい、全員でシンクロするなよ。」

「そう。俺、欲しいモノは自力で手に入れる主義なんだ。」

「その欲しいモノってなに？」

「それは言えない。でもそれは北浦にしかないし、勉強なんてどこでも出来るだろ？」

事実、今回の模試も俺は上位に入っている。

「なんか・・・かっこいい・・・」

「つと悪い、俺そろそろ帰る。じゃあな」

女の子一人が俺に熱視線向けていることや、それに対しても男一人が嫉妬視線向けていることにも気づいていたけど、そんなことは無視。

「なんで北浦？」

「何度も何度も聞かれたことだ。」

「それでも後悔なんてしたことない。」

「絶対に手に入れてみせる・・・・・」

さて、そろそろケイが帰つてくる頃かな?
これで今日は退屈せずにすむな。

有島秋のターン3（後書き）

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^_^

有島秋のターン4（前書き）

前回に引き続き、今回も有島くんのターン。

そろそろ進展させていかねば；

良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://bl0

gs.yahoo.co.jp/chilanj161020

有島秋のターン4

そろそろケイが来るな・・・

3・2・1

「アキ！入るぞ！――」

ほら来た（笑）

「お前ね、返事する前に入つてきたらノックの意味ないだろ？？」

「いいじゃんか、お前と僕の仲だろ？――それにしても疲れたあ」

「おおげさだな、掃除当番は5人も居るんだから、そんなに疲れないだろ？」

「今日は一人だつたんだよ！――」

「あら、う・・・それはそれは失礼いたしました。で？・誰とやつたんだよ」

「ん？・吉田さん。まあだから、そこは別に悪くはなかつた・・・けど・・・」

「なんであ、お前吉田のひと気に入つてんの？」

「いや・・・普通に可愛いなあとは思ひナビ・・・」

「ど、顔普通じゃん」

つーかあ、いつの笑顔はウソくせえ！

「ど」がつて・・・一生懸命なことか、気遣いできるとか、顔じゃないよ。つてお前なんで機嫌悪いわけ？」

「別に悪くないです！」

「ああ、そうですか！！」

「あつ！ そういうえば、おばさんと一緒にカズ姉も出かけてたぞ？ あ
と一人は見たこと無い男だつたけど。」

「ああ、新しい彼氏だろ？」

「また男変わったのかよ！？相変わらずモテるな、カズ姉。で？今度はどんな人？」

「さあ？ 知らねえ・・・・どうせまたすぐ終わるだろ」

۱۵۱

「それよりさ！今晚の夕飯なに？アキのおばさん料理上手いから、かなり楽しみ」

「ケイ、夕飯の前に課題しりーお前明日また当たるだろ?」

えー！

「そして早く寝ろーー！」

「なんでだよ！お前は僕の母親か！…」

「だつてお前、明日は焼きそばパン買わなきゃだらう・早めに寝て、体力温存しどけよー」

「せうだつたー焼きそばパンー・やつぱり今日の僕はついてない・・・・・」

あはははは、やつぱりケイは飽きないな（笑）

それにもしても、掃除当番・・・・・うせ暇だつたし、俺も行くべきだ
つたな・・・・・

吉田か・・・・・あいつ苦手なんだよなあ・・・・・

まあとりあえず、ケイの士気を上げるために今日の夕飯を聞いてこ
よつ。

有島秋のターン4（後書き）

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら、参考にします^_^

田島君のターン4（前書き）

今回は田島君視点です。

次はもう一度田島君が有島くんかなあ。

良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://bl0

gs . yahoo . co . jp / chi - anjii61020

田嶋樹のターン4

戦いはもう始まっている・・・
チャイムが鳴るまであと5分。

まずはチャイムと同時に立ち上がり、廊下に飛び出す。
そのまま一気に階段を駆け下り、獲物をゲットする。

そう今日の僕はハンター。

「焼きそばパンのな」

・・・・・

「アキ！…集中してんだから話しかけるなよー。」

「お前大げさすぎだから（笑）」

「お前ね、焼きそばパンがどれだけ競争率高いか分つてんの？？」

「そんな、たかが焼きそばパンだろ？」

「その【たかが】のために僕は走るんですけど・・・じゃあ買わなくてもいい？」

「ダメーーー！」

ちつ。

「ほり、もうすぐチャイム鳴るだ？」

「あーーもうーお前が話しかけるからだろーー。」

あと1分・・・あと45秒・・・あと30・・・15・・・

3
•
2
•
1

【キンコーンカーンコーン】

今だ！！！！

僕は勢いよく立ち上がり、一瞬散に売店を目指した。

ごめん先生、今田だけは見逃して！

見よ！この華麗なるスタートダッシュ！
これなら焼きそばパンは余裕でゲッ・・・・つて

----- @@@? ?

な、なんでもうこんなに人が居るんだよ！！

お前はちゃんと授業最後まで受けたのか？？

（泣）いけないんだ、いけないんだ！せーんせこに書かれてやるのう（泣）

「うわー、もうこんなに人居るの?」「ん? 誰だ?」

גָּדְעָן • עַמְּקָמָה • ג

宇野ちえ、吉田さんの親友。

「宇野さんもパン買うの？ めずらしけれ。」

「あー、田島君。うん、今日お弁当わすれちゃって……でも、この状況……今日はお腹抜きかも。田島君、教室出るの早い」
かったね（笑）」

「うん、ちょっとね……僕の分はちゃんとお弁当あるんだがね……誰かさんせいでこんなこと……」

「え？？」

「あーいや、宇野さん何が食べたいの？」

「うーん、焼きそばパンを食べてみたかったんだけど……無理そうだね。」

「……OK、わかったー。ちょっとここで待つてーーー。」

「え？ ちよつと、田島君？」

「ここまで来て諦めるなんて男がするぜー。」

「うは焼きそばパンー！ パンハンターをなめるなよ。」

パンハンターって……だせえ……
と自分に突っ込んでる場合じゃなー！」

「おばりさんーーー焼きそばパン3つと……ってーーー。」

誰だよ、髪の毛引つ張つてゐる奴！－！
おい、こりあ前！俺の足踏んでるぞ！－！
くつそー負けてたまるか！－！

「おおまけやー——————ん

「だ、大丈夫？田島君···」

「大丈夫···だと思つ···」
ひ、ひどかった···もつボロボロ。

「はい宇野さん。」

「うんね、ありがとう。つて焼きそばパン買えたの？」

「うん、頑張つた（笑）」

「えつ？でも田島君のは？」

「大丈夫ーちゃんとゲットしたから。」

「本当に？」

「本当にほり、昼休み終わつちやうよー早く教室戻ろ！吉田さん
も待つてゐんじゃない？」

「いや、めいは今日日直だから、もう次の授業の準備に行つてると
思つ。」

「準備？一人で？もう一人は？」

「さあ、誰だつたかな？」

「誰だ！女の子一人で準備させて！－！」

まして吉田さんとなんてうらやましい状況を－－－。

・・・・・

「田島君？」

「えつ？ああ、戻ろうか、宇野さん。」

はあ・・・・・アキのやつ待ちくたびれてるだろうなあ・・・
でも「」のパン袋の中身を見たら・・・・・

ま、まあとりあえず教室に戻るか。

田島彗のターン4（後書き）

一度宇野さん視点を挟むか悩み中・・・
感想・アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^_^

有島秋のターン5（前書き）

今回は有島秋君視点です。

次はそろそろ吉田さんですかね。

良かつたらブログも覗いてみてください^ ^ http://bl0

gs.yahoo.co.jp/chilanj161020

有島秋のターン5

遅い！！

もつ休みも1／3は終わっちゃったじゃないか！
あーくそ、腹減ったあーーー！

「そんな恐い顔してんなよ・・・鏡見てみろよ、腹減らしたライオ
ンみたいな顔になってるぞ。」

「ケイ！お前なにしてたんだよ？！俺を餓死させる気か？え？？」

「悪かったよ、だってすげえ売店込んでたんだもん。
つてよく見たらいつ制服パンパン・・・

「で？パンは？」

「まじ。」

「おお、サンキュー。もつ頭の中焼きそばパンで一杯・・・つてケイ
君？」

「何かしら？アキ君？」

「ひ、ひひひを向け！」

「僕、目が悪くなったのかなあ？焼きそばパンがメロンパンに見え
るんだけど。」

「うわーアキ君、それは眼科に行つたほうがいいよ。」

「やうだよね、じゃあ頂きます……ってコレは見た目も味もメロンパンだろ……」

「あっ！バレました？」
おい！

「俺は焼きそばパンを買って来いつて言つたんだけど？」

「お前はジャイアンか！仕方ないだろ？買えなかつたんだから……」

「逆切れかよ！のび太のくせに生意氣だぞ……つて、お前あんなに教室飛び出しどこで……だせえ……」

「うるせえ……文句言つな……」

「可哀想な俺の腹袋……焼きそばパン期待してたのに……」

「だあ・かあ・じあ……」

「あのあ田島君……」
ん？宇野ちえ？

「ああ、どうしたの宇野さん。」

「焼きそばパンすぐ美味しかつた。ありがとうね。有島君はまつ食べた？」

「えつ？」

「あー食つた！食つたよなアキ？」こつ感動しちゃつてやあ

えつ？？

「あはは、確かにあの味は感動するな。本当にありがとう、田島君。」

・・・・・

「いいよ、気にしないで。な？アキ。」

・・・・・・・・・

「ありがとう、じゃあね。」

えつと・・・・・

「はーい。」

「これは・・・・・

「ケイ君？ いつの間に、僕の胃袋に焼きそばパンが入ったのかな？」

「寝ぼけていたんじゃない？ アキ君。」

「・・・・・・・・・

「おーまーえーなー・・・せっかく買つた焼きそばパン、宇野にせつただろ？」

「こいつはこいつもせつだー！」

「だつて仕方ないだろ？ 食べたいって言つんだからーーー！」

「は女子優先だろ！」

「このフュニーストがーーー！」

「あーーーんうそう、有島君。」

「

「えつ？何？」

なぜ戻ってきた宇野！まざい、今の聞かれたか？

「あっ、ごめん、な、なんか話中だった？」

「いや、別に……で、何？」

「今日、有島君日直じゃない？次の授業の準備行かなくていいのは？日直？」

「あ――――――――忘れてた！！」

つて、俺まだ昼飯食べてないんだけど……

「早く行けよアキ、そして馬車馬のように働いてこいよ（笑）」

「わざわざありがとう宇野。でもそれはケイが行きたいっていうから変わったんだ。な？ケイ。」

「はあ？？なんで僕が！」

「焼きそばパン……」

「…………あーそういうえば忘れてたなあ……僕アキの変わりに準備したかったんだあ……行つてきまーす……」

「な、なんか……大丈夫かな？田島君……」

「あーいいのいいの。そういうえば、もう一人の日直って誰つだっけ？」

「ん？ めいだよ。」

あー吉田ね・・・・・

ん？ 吉田？

まずい！

「おー、ケイ・・・ってあーにつけだじーに行つたー？？」

「じこひて・・・ 理科室でしょ？」

冷静なツッコミをありがとつ。

くつそー焼きそばパンは食べれなし、全力疾走してるし・・・・
今日は俺が厄日か？？

はあ・・・・・・

有島秋のターン5（後書き）

うーん宇野さん出でくるなあ（笑）

実はまだ誰と誰をくつつけるとか未定だつたりしますへへ；

どうしよう・・・

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら参考にしますへへ

吉田めごのターン4（前書き）

久しぶりの吉田さん視点です。

最近ミクシ始めました。

いやあ暇つぶしにはいいですねw

さてさて、徐々に話を動かしていく予定です。

田島のターン4

「じゃあ吉田、これも頼むな

「はー。」

はあ・・・・普通女の子にこんな重たい教材持たせるつ
まだ理科室の準備終わってないんだけどなあ・・・

ていいかーもう一人の田直はどうに行つたのよー¹
まあいいや、とつあえずコレ置いてこよつかな・・・

「吉田さんーー。」

「えつ?」

だれ?

・・・・・田島くん?

「どうしたの田島君・・・つて大丈夫?」

「うー、めぐ・・・はあ・・・食べて・・すぐ・・走ったから・・・

」

「あいつでここよ、何か用?」

「田直・・・」

「えつ？」

「田直の仕事、手伝つよ」

「あれ？ 田島君、今田田直だつたつけ？」

「いや、違つけど、頼まれたから」

「あーじゃあ悪いよ。大丈夫！ 一人で出来るから。」

「いやいやいや、女の子にこんな重いもの持たせられないから。ほら、それ頂戴。」

うわー噂通りフュミースト。。。

「あーじゃあ・・・悪いんだけど、理科室の準備しててもいいっていい？」

「理科室？」

「うん、まだ準備終わつてないの。コレ置いたらすぐ来るから、それまでやつてもらつてもいい？」

「ていうか、僕が教材持つて行くよ。」

「いいのー！ だつて田島くん田直じゃないでしょ？ 準備手伝つてもううだけでも悪いのに、そんなに甘えられないよーね？」

「わかった。じゃあ理科室準備しておへくな。」

「うん、ごめんね。すぐ行くから。」

あーあ、走らなくてもいいのに・・・

それにしても田島彗・・・誰にでも優しいのね。
しかも天然で・・・なんか・・・

「おい！」

「…」うわう

誰よ？！こちなり声かけるなんて！思わず変な声だしかけたじゃ
ない！！

有隻
秋
？

「ケイは？」

えつ・・・あー田島くんなら理科室だけど・・・」

理科室？

「うん、田直の仕事手伝ってくれるって言つからひ・・・
私こいつ苦手なんだよね・・・

「
心
」

ほら、大抵私が「いい子ちゃん」やれば皆私に好意的なのに、こいつだけは違うんだよね・・・

仕方ない、ここはもう2、3匹猫かぶるか・・・

「でも、田島くんって優しいよね、田直じゃないのに手伝ってくれるし。皆に好かれてるのわかるな。」
これでどうよ！今最高の笑顔だね私。

「・・・・・」

な、何よ・・・なんで睨まれなきゃならぬの?

「お前さあ・・・」

何よ・・・

「その作り笑顔やめれば?ムカつく。」

「は?」

「まあいいや、ケイは理科室なんだな。つたくあいは、足だけは速いんだから・・・」

「ちよ、ちよっと・・待つ・・・」

行つやつた・・・

なに?何?何?何?何?何?

何今の??

あいつ今なんて言ったの?

なんなの?あいつ?

作り笑いが?

何が?

ムカつく?

なんなの??

やつぱり苦手だ！有島秋！――！

畠田めごのターン4（後書き）

感想・アドバイス・リクエスト頂けたら、参考にします。
「～視点」を見たい！とリクエストしてくだされば、書きますw

田嶋樹のターン5（前書き）

か一なり久々の更新。

卒論終わって、やつとこれから更新できる 〃〃

田嶋彗のターン5

理科室、理科室

それにもしてもアキのやつ、吉田さん一人に準備をさせて、男の風上にも置けない奴だな！

悪い奴じゃないんだけどなあ・・・

そういうえば、あいつって好きな人とかいるのかな？

アキとは付き合って長いけど、そういう恋愛の話つてしたことないな
あ・

まあ、あいつが人を好きになるなんて想像つかないけどね（笑）

あいつが好きになる人だから、きっと完璧ないい女とか！

いやいや、逆に天然ドジッ子とか！

意外な線で・・・・ロココノヘーー

・・・・

・・・・

・・・・

やめよひ・・・殺される・・・

それにもしても、誰もいない理科室ひて氣持ち悪ツ！

あーあ、机に落書きが沢山・・・

おつーこれは僕が高校1年のときに書いた傑作「たいややくへと」

特技：つまよひじで刺す

・・・・

くだらねえ（笑）

これもありがち相合傘！

あつ

「ケイ！」

「うわっ……！」

ビックリした・・・なんだ?

「…アリササム…・…のへ逃…・…吾め」

「アキ? 何? もうしたの?」

「えつ? いや? や? ぱり? 直押し付けるのは可哀想かなつて? 」

・

「やつこ? 」とせ僕じやなくして、吉田さんに向ふよー。

「また吉田かよ? 」

「えつ? 」

「いや? つてお前向してんの? 」

「ああ? ちよつと嘘の落書きをみてた」

「ふーん? 」

ああびっくりしたあ・・・・

理科室だからまじでビビッたあ

あっーおばけが怖いとかじゃないからなー！

違うからなー！

田嶋詩のターン5（後書き）

アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^_^

有島秋のターン6（前書き）

少しずつ恋愛を動かしたい！

のに動かない（笑）

有島秋のターン⑥

「で？ なにやつてんだ？」

「いや、ちよつと昔の落書き見てただけだよ」

「ふーん・・・さすがに相合傘の落書き多いな」

「まあ一時期噂あつたもんな、理科室に相合傘書くと結ばれたり

「おつー！ B組の田代と金子。これ書いたの絶対田代だな（笑）」

「アキのも沢山あつたよ（笑）」

「は？ 誰だよ勝手に元ビーバー？」

「ほひ、し組の向井さんとか、おつー鈴木さんも

「ケイ、消しゴムー」

「はあ？ いいじゃん…そのままにしてやれよ…可愛い…落書きだ
る？」

「やだよ…好きでもない奴と相合傘なんて、たとえ落書きでもやだ
ね！」

「じゃあお前の好きな人ってだれ？」

「まつ？」

「いやあ、お前って好きな人いるの？」

「なんだよ急に・・・」

「いや、僕達って付き合い長いけど、そんな話しないじゃん?」

「じゃあお前は？」

「えつ？」

「お前はどうなんだよ？人に聞くにはまず自分のを言えよ」

「いや、僕は…」

「吉田なの？」

「えつ？なんで？」

「だつてお福、やたりと畠山の品あるじやん」

「ニヤ、可憐ことば細ひてゐたゞ・・・」

・・・・・

「おーこお前ひり、準備できたのかあ？」

「わあ……柴田先生っ！」

「なんだよ？人をおばけみたいにー！お前ひりひちか、準備室から資料とつてここ

「あー！僕がこきまわ」

「おつ、じやあ頼んだが」

「あーじゅあ、僕準備室行つて来るから、アキは準備の続きをやつして

「ああ、わかった」

それにしても、本当に相合傘の落書き多いな・・・

ずいぶん昔に書かれたやつもあるし・・・

おっ！これってカズ姉じゃん

さすがカズ姉！モテるねえ

でもこれ・・・

なんで相手の名前、全部消えてるんだ？

あつ・・・じゅちも、これも・・・

なんだこれ・・・カズ姉の相手の名前、意図的に全部消してある・・・

筆跡全部違つから、相手の名前はみんな違つんだろうけど・・・

まあカズ姉モテるからな、誰か消したんだろう。

そうそう、俺のも消そうー！

つたく、勝手に書きやがつて・・・

・・・・・

・・・・・

・・・・・

「有島？」

「わあーーー！」

びっくりした！…ん？大塚？

「なんて声だしてるんだよ（笑）授業始まるぞ」

「ああ・・・もつもんな時間か」

「それにしても腹へんない？」

「お前、さつき飯食べただろ？だから太るんだよー。」

「なんだよお、つてお前なにか書いてたの？」

「いや・・・ほ、ほら、いいから座るぞ」

「えー何書いてたんだよ」

「大塚、チヨコやるからとつあえず座ろっせ」

「まじっチヨコハマセのやつっ」

あーびびつた・・・

つーかこいつが食欲魔人で助かつたあ

あれがバレたら、恥ずかしさで死ねるね！

いやあ・・・俺も意外に乙女思考だな・・・

有島秋のターン6（後書き）

アドバイス・リクエスト頂けたら参考にします^_^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1525f/>

トライアングル～僕と私と俺の恋愛事情～

2010年11月10日14時42分発行